

自由論題4、報告2

報告テーマ

中国における「国学ブーム」という現象について
‘The boom of Guoxue’ Phenomenon in China

氏名(所属)

金 世勇(法政大学社会学研究科
JIN SHIYONG(Hosei University))

要旨(800字程度)

2005年以降、中国では「国学ブーム(国学熱)」という現象がみられるようになった。「国学ブーム」現象というのは「国学(中国の古典)」が社会的に流行することを指し、大学における「国学」教育や研究の発展、「国学」関連する本のベストセラー化、13歳以下の子供に『論語』のような中国の古典(「国学」)を読ませる読経運動などのさまざまな現象が含まれている。

本研究では、「国学」という言葉が歴史的にどのように使われていたかを考察することで、2005年以降に新しい意味の「国学」が用いられる原因を「国学」唱導者たちの言説のなかから解明を試みた。そして、「国学ブーム」で重要な役割を果たしている読経運動へのフィールドワークをつうじて、「国学」が一般の人々にどのように認識されるのかをしらべ、「国学ブーム」という現象が中国で起こる原因を検討した。

1990年代から、中国政府はナショナリズム的イデオロギー転換とともに大学での「国学」研究を奨励していくようになった。2005になると、民間で「国学ブーム」という現象が起こる。「国学ブーム」では、「国学」が過度な「西洋化」による社会道徳の「崩壊」という事態を改善する理論として唱導されたことがわかった。このような「国学ブーム」は、政府が主張するマルクス主義イデオロギーや多民族国家の立場と矛盾を生ずるが、政府の伝統文化推進政策によって生じた政治的機会を利用して発展したことが明らかになった。また、読経運動への一般の参加者は、「国学」を子どもの教養や能力を高めることに用いることと、反政府志向の人々も多く参加していることが明らかになった。

以上から、「国学ブーム」という現象では、社会道徳の「崩壊」という社会問題への批判として「国学」が用いられる。その影響で、政府を批判していた人々も多く参加するようになった。また、「国学ブーム」では人々が現代社会へよりよく適応するために「国学」を利用することも注目できる。